



NPO法人化20年目を迎えて

代表 小澤 邦彦

本年度でNPO設立20年目となり、昔の事が昨日のように思い出されます。活動開始から23年も経て自分も23年の歳を重ねている事を忘れていました。年齢を重ねると、昔のことは鮮明に思い出すものの、最近のことは記憶が定かではありません。歳を取ると話が長くなると言われますが、その通りで、前置きが長くなってしまいすみません。

思い起こせば、市の呼びかけによる高德神社での活動は、2002年4月から2003年3月まで12回行い、参加した市民の皆さんがこの活動を継続したいと、任意団体として2003年4月から2005年11月まで活動を始めました。その際、富士見工業団地の企業の支援、助成金財団の支援、埼玉県の里の山守制度による支援を受けながら、2005年12月にNPO設立後の活動を開始しまし

た。設立記念講演として宮脇昭先生に講演をお願いしました。宮脇昭先生は、1981年に「鶴ヶ島の植生Ⅰ」、1987年に「鶴ヶ島の植生Ⅱ」と、2度の植生調査を実施していただきました。この調査は、自治体が独自に調査した数少ない事例です。当時の行政関係者の自然に対する危機感が伝わってくるようです。

また、市民活動推進センターの開設により、市民活動団体が横に繋がる機会が生まれ、社会福祉協議会の支援に加え、多方面の市民活動団体との連携活動に取り組むことができました。つるがしま里山サポートクラブの活動が多方面の市民の方々との連携を築けたのも、このときの「縁」が始まりです。このつながりを大切にしたいものです。その後、2006年以降の思い出は沢山あり、次号以降に連載したいと思います。



「子どもの活動をご一緒に」から早や10年

木部 文子

賛助会員の木部(おやこ劇場所属)です。

里山サポートクラブとのご縁を思い返してみると、2005年ごろには出会っていたと思います。2011年の東日本大震災後の支援活動で、2回、東北(気仙沼・陸前高田)に同行した旅は印象深いです。その後、2013年からは、市民の森でのプレーパークまつりをいろいろな団体と協力して始め、第8回まで続けました。

また同じ時期、おやこ劇場が主催した子どもゆめ基金事業として、タケノコ掘り、竹あかり作り、流しそうめん、たけうま作り、門松作りなどを始めました。毎回、里山サポートクラブの方々に指導者になっていただきました。

地域の市民団体から、自分たちの活動を子どもに体験させたいけれど、方法が難しい、という共通の声を聞きまして、各団体の得意とする分野と子どもをつなげる役割を、私たちが試みては、と考えました。事前に「ご一緒に、子どもの活動をしませんか」と呼びかけ、「どんなことができますか」とお尋ねし、それらをまとめて文科省子どもゆめ基金の助成事業に申請したのでした。

その後、子どもゆめ基金事業の主催者はつるがしま里山サポートクラブになり、おやこ劇場はチラシ作成・配布(市内全小学校・全保育所等)や当日のお手伝いとして協力する形に変化しつつ、今も続いています。自分たちがちょっと得意とする事で、地域での子どもの体験活動に協力できて、嬉しいです。

これからも、みなで助け合って、元気に楽しくやっていきたいですね。



4月～7月の主な活動

東市民センター結桜まつりに参加し、広場で竹細工、バンブーパン焼き体験販売や小彼岸桜苗や掘りたて筍の無償配布を行いまつりに賑わいを添えました、

恒例の親子で楽しむ筍掘り体験会は、今年は筍の豊作の年に当たり2回とも参加者は大いに楽しんでいました。

小彼岸桜の新芽採取・挿し木作業は今年は太田ヶ谷の森のフェンス沿いに植えた桜から採取しました。太田ヶ谷の桜は新芽取りしてから丸4年です。その元の木は運動公園の桜並木なので孫になります



太田ヶ谷の旧農業大学跡地に進出する企業や県の事業所にも小彼岸桜が植わるのが楽しみです。



都市化が進んだ鶴ヶ島では市民が清流を楽しめる場所は少なく、大谷川、飯盛川で市民が川遊びのできる場所の清掃活動を行っています。



市民の森は市民が何時でも自由に散策できる里山です。除草したり、立ち枯れ樹木を伐採したり、植樹したり、親子で楽しむ里山体験会を開催しました。

4月～6月 活動実施

- 4/20(土) 東市民センター結桜まつり参加
- 4/27(土) 親子で楽しむタケノコ掘り体験会
- 4/28(日) 大谷川に蛍の放虫
- 5/ 5(土) 親子で楽しむタケノコ掘り体験会
- 5/ 9(木) 小彼岸桜新芽採取
- 5/18(土) 毛呂山グリーパークに協力
- 5/19(日) 大谷川クリーン大作戦
- 5/25(土) 飯盛川清流復活大作戦
- 6/ 1(土) 鶴ヶ島市民環境まつり参加
- 6/ 7(金) アールト高倉市民の森体験会
- 6/ 9(日) 夏の里山体験会 in 高倉市民の森
- 6/15(土) 自然環境財団主催イベント参加
- 6/22(土) 藤金の森整備

7月～9月 活動計画

- 7/10(水) 会員親睦バーベキュー
 - 7/22(土) ボランティア体験会 in 五味ヶ谷の森
 - 8/10(土) ボランティア体験会 in 高倉の森
 - 8/12(月) 流しロード支援(農業交流センター)
 - 8/31(土) ボランティア体験会 in 藤金の森
 - 9/ 7(土) 藤金市民の森里山体験会
 - 9/18(水) 逆木倉庫清掃整備
 - 9/28(土) 樹木医指導による里山樹木点検
- スケジュールは雨などで変更が有りますので、当クラブHPで確認下さい。

最近のトピックス

■第一生命の公報冊子に当クラブの活動が紹介されました。

都市緑化機構主催の「緑の都市賞」(特別協賛・第一生命財団)で国土交通大臣賞を受賞した当クラブが雑誌「地人館」172号2024.4(第一生命財団発行)に紹介されました。雑誌には、当クラブの活動写真紹介とともに、代表より、“里山の重要性や緑地の環境への影響を若い世代に伝え、高齢化がすすむ団体の若返りを図りたい”との談話が掲載されています。

「一般財団法人第一生命財団」のホームページにも掲載されています

http://group.dai-ichi-life.co.jp/dai-ichi-life-foundation/green/file/2024_002.pdf



■飯盛川に蛍の飛翔が復活しました。

10数年前に復活し60年ぶりだとおっしゃる高倉の住民の一言が忘れませんが、以降、毎年ホタルが発生していたものの、上流の開発等により飯盛川の水質の変化かどうかわかりませんが、ホタルの発生が少なくなり、一時、発生しなくなっていました。しかし、会員の懸命な努力により、カワナなどの餌の投入を継続し、数年前からホタルが復活しています。今年も30匹程のホタルが飛びました。

■続々と冊子を発行「子供達の自然体験活動の提案」

当クラブでは市民や子供達に自然体験活動を通じて、里山(自然)の大切さを感じて貰いたいと活動しています。クラブの最初の活動は2003年のタケノコ掘りで、11月には「森の作業と芋煮会」でした。

その後、「不登校生の自然学習支援」、「藤小学校の野外学習支援」、「市民のボランティア体験」が等を行ってきました。保育園・幼稚園や小学校の先生方にも自然体験をして頂き保育・教育活動に取り込んで頂きたく願っています。我々の活動範囲は益々広がる一方です。この小冊子をご覧頂き、我々の活動に参加されるよう願っています。冊子は無料です。希望される方はご連絡ください。

つるがしま里山サポートクラブは、2023年3月29日に設立総会を開き、4月1日を発足と決めました。そして4月19日に里山クラブとして最初の活動が、五味ケ谷市民の森タケノコパーティーでした。会員が家族で参加し、子供達が楽しくタケノコを掘り、大人たちは、吉牟田さんの豚汁をいただきながら、ビールで乾杯している写真が残っています。その後2007年まで毎年4月にタケノコパーティーを開催し、たけのこ掘りと美味しくビールをいただいていた。2007年の5月5日こどもの日に、テレビ埼玉の取材をうけ、親子でタケノコ掘りを楽しむ「おとうさんのタケノコタイム」を開催し、その場で掘ったタケノコをその場で料理して美味しくいただくイベントを始めました。

2008年からタケノコ掘りは、5月5日に限定し、イベントの名称を「おかあさんのタケノコタイム」に変更し、掘ったタケノコを東市民センターで調理し、タケノコ汁、ホイル焼きなどで美味しくいただくことになりました。2013年には、おやこ劇場さんからの依頼で4月に三ツ木の斎藤さんの竹林でタケノコ掘りイベントを行い、2014年にも同じくおやこ劇場さんの依頼で4月に五味ケ谷市民の森タケノコ掘りイベントを開催しました。

2015年から夢基金に申請して、里山クラブ主催のタケノコ掘り体験会を5月5日に開催することになりました。

その後2016年には、夢基金の1次申請プログラムが全部不採択となり、自己資金で開催することになりました。

2017年から2019年までは夢基金の助成で開催できました。

2020年は不採択となり、2021年採択、2022年、2023年と不採択となり、杉下支え合い協議会の資金協力を得て開催しました。また、2020年からは、コロナの関係で東市民センターに集まることに遠慮して、五味ケ谷市民の森の中で、竹を燃やして、掘りたてのタケノコを焼く、大名焼きを実施し、他では経験できない野性的な料理として好評を得ています。2024年に久々夢基金に採択され、助成金をいただくことができました。



タケノコは、豊作の年と、不作の年が毎年交代します。昨年は不作の年で、イベント参加者が全家族掘れるだけのタケノコを確保することができず、地主の滝嶋さんをお願いして、敷地のタケノコを掘らしてもらいなんとか乗り切りました。2024年は、豊作の年で、およそ400本くらいタケノコが発生しました。200本は、手をつけず、親竹に育てます。170本はイベントで掘ってもらうのと、散策路や境界付近で除伐しました。残りの約30本は、タケノコ泥棒に持ち去れたタケノコになります。

五味ケ谷市民の森竹林のタケノコは、以前から、タケノコ泥棒の被害にあっていました。10年前ごろから毎年4月になると、「タケノコ掘り禁止」の看板設置していますが、看板の側に生えたタケノコも盗まれました。昨年は、不作ということもありましたが、盗掘もひどく、イベントができないところまで追い詰められました。

いろいろ対策が考えられますが、まずは警察にたよることにして、近所の交番に事情を説明し、見回りをお願いしました。今年は、4月はじめから交番に行き、見回りをお願いしました。4月21日朝に警察から連絡があり、タケノコ泥棒をつかまえたので、現場検証協力の要請がありました。前日の夜11時ごろパトカーで見回りしていると、市民の森から灯りが見えて、森に行ってみると40代の女性2名がタケノコを盗っていたそうです。市民の森と、滝嶋さんの敷地で11本の盗られた跡を特定し、現場検証が終わりました。そして22日の朝、竹林の確認に行くと、10本くらい新しい盗掘の跡が見つかりました。来年も警察をお願いして、見回りをしてもらう予定です。

五味ケ谷市民の森竹林は適度に間伐し、太くで立派な竹が数多く生えており、美竹林に向かって成長しています。しかしまだ数か所に傘をさして歩けるような空間が広がり、そこを埋めるタケノコの成長を期待しています。ちなみに竹林の整備で傘をさして歩ける竹林を目指すという考え方があります。これは、タケノコ農家が良いタケノコを多く収穫するための竹林です。日本三大美竹林があります。嵯峨野（京都）、揖斐川（岐阜）、岩国（山口）です。何処も立派な竹が密接してそそり立っています。密接した竹林では、太いタケノコが少量発生するそうです。疎らな竹林では、太くないのタケノコが大量に発生しますので、タケノコ農家向きです。私は、五味ケ谷竹林が日本人の美意識にあった三大美竹林のように育っていくことを願っています。

小彼岸桜の鉢植えにチャレンジ

副代表 佐野 英樹

わがクラブは、「小彼岸千本桜」構想のもとに市内に小彼岸桜を植樹してきました。

太田ヶ谷の森には桜並木が出来ています。東市民センターでは伐採したソメイヨシノの老木に代わって植えたものがよく育ちたくさん花をつけています。

2021年4月に太田ヶ谷の森に59本の小彼岸桜を植樹しました。この桜は、2019年5月に運動公園前の道路の桜から新芽を採取して挿木し、約一年間鉢で育て、さらに一年間脚折菜園で育てたものです。

その並木の中に株本から30cmほどの高さで切られたものがあり、2022年4月植替えをしました。この時掘り起こした苗木を持ち帰り鉢植えにチャレンジしました。昨年(2023年)は数輪の花をつけました。今年は挿し木してから五年目になりますが写真のように花がだいぶ増えました。

この鉢の桜は次のように育てました。

苗木は上記の経緯で太田ヶ谷の森から掘り上げたものです。苗木を高さ約25cmに切りつめて、切り口はナイフで丸く盛り上がるように削り、そこに融合剤を塗布して保護しました。苗木は根が太く長く成長しているため、直径20cmの鉢に植えましたが、苗木が鉢の中心から少し外れています。用土は赤玉土(小粒)3と腐葉土1の割合にしました。肥料は花用の液肥を使用しました。冬季を除いて2週間に1回与えていましたが、ネットなどで見ると多すぎたようです。

植替えや剪定については、「小彼岸千本桜」の指導者である橋本さんにお聞きして、次の機会に報告します。

わがクラブは、毎年4月に東市民センターで開催される『結桜まつり』で小彼岸桜の苗木を無料でさし上げています。貴重な苗木が身近で手に入りますので、鉢植えにチャレンジしてみませんか。



タケノコ掘りに参加して

及木 睦美

五月五日こどもの日に人生初のたけのこ掘りに、七歳の孫と参加させていただきました。

初夏を思わせる日となり孫と二人、やる気満々で『五味ヶ谷市民の森』に向かいました。

主催者の挨拶や掘り方の説明を聞いてから参加者の大勢の方々とたけのこを求めて竹林に足を踏み入れました。あちらこちらから「あったよ!」「ここよ!」等の歓喜の声が飛び交い、楽しい時間のスタートです。

私達も地面から少し顔を出したたけのこを見つけて渾身の力を込めてスコップをその辺りに突き刺しました。何度も繰り返しましたが地下茎に当たりなかなか深く掘ることができません。それでも苦労して付け根近くまで掘ったので手にしたたけのこには赤いつぶつぶが付いていました。たけのこ掘りの醍醐味を味わうことができ、楽しかったです。その後、スタッフの方が掘りたての新鮮なたけのこをそのまま焚火で焼く大名焼きを作ってください、とても美味しいいただきました。

ゴールデンウィークに貴重な体験を孫と共有できましたこと、企画・運営されたスタッフの方々に感謝申し上げます。



筍の皮の付いた儘で焼く大名焼き

スコップをたけのこ近く突き刺せば痛くないかなと孫の言うなり

(鶴ヶ島短歌クラブ会員)

編集後記

当クラブは法人化してから20年目を迎えました。発足時からのメンバーで今も大黒柱となっている会員もいれば、諸事情で活動から離れた方、新たに参加した会員もいます。ボランティア団体でこれほど長く活動している団体は少ないそうです。鶴ヶ島の自然がこれ以上減少しないよう、鶴ヶ島の魅力を感じながら次世代が育つふるさとを作りたい。

: <http://www.satoyamasupport.com/>